

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年8月27日(2015.8.27)

【公開番号】特開2013-234164(P2013-234164A)

【公開日】平成25年11月21日(2013.11.21)

【年通号数】公開・登録公報2013-063

【出願番号】特願2012-155781(P2012-155781)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/7024	(2006.01)
A 6 1 K	36/18	(2006.01)
A 6 1 K	31/198	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/365	(2006.01)
A 6 1 K	31/222	(2006.01)
A 6 1 K	31/37	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	31/7024	
A 6 1 K	35/78	C
A 6 1 K	31/198	
A 6 1 P	43/00	1 0 5
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 K	31/365	
A 6 1 K	31/222	
A 6 1 K	31/37	
A 6 1 P	17/00	

【手続補正書】

【提出日】平成27年7月10日(2015.7.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

具体的な好ましい実施例を参考にしながら本発明を開示してきたが、当業者が本発明の範囲を逸脱することなく修正および多様化を実施できることは理解されよう。したがって、前述の開示は单なる例示であり限定的な意味はないと解されるべきである。本発明は添付の請求の範囲(前記もまた等価の範囲を含む)によってのみ限定される。

本発明のまた別の態様は、以下のとおりであつてもよい。

[1] 相乗作用性組成物を含む真皮乳頭細胞保護処方物であつて、前記組成物が、1-O-ガロイル-*D*-グルコース(-グルコガリン)、ココス・ヌシフェラの液状内乳の濃縮物、およびセレノペプチドを含む、前記処方物。

[2] 前記相乗作用性組成物が、少なくとも10% w/wの1-O-ガロイル-*D*-グルコース(-グルコガリン)を含む、前記[1]に記載の処方物。

[3] 前記相乗作用性組成物が0.5% w/wのココス・ヌシフェラ液状内乳由来濃縮物を含み、前記濃縮物が40% w/w以上の総溶解固体を含む、前記[1]に記載の処方物。

[ 4 ] 前記相乗作用性組成物が0.001% w/wのセレノペプチドを含む、前記〔1〕に記載の処方物。

[ 5 ] セレノペプチドが -L-グルタミル-セレノメチル-L-セレノシステインである、前記〔1〕に記載の処方物。

[ 6 ] セレノペプチドが -L-グルタミル-L-セレノメチオニンである、前記〔1〕に記載の処方物。

[ 7 ] 相乗作用性組成物を含む真皮乳頭細胞保護処方物であって、前記組成物が、1-O-ガロイル- -D-グルコース (-グルコガリン) および没食子酸エステル、ココス・ヌシフェラの液状内乳の濃縮物、並びにセレノペプチドを含む、前記処方物。

[ 8 ] 前記相乗作用性組成物が、少なくとも10% w/wの1-O-ガロイル- -D-グルコース (-グルコガリン)、並びにムチン酸1,4-ラクトン-5-O-没食子酸エステル、ムチン酸2-O-没食子酸エステル、ムチン酸6-メチルエステル2-O-没食子酸エステル、ムチン酸1-メチルエステル2-O-没食子酸エステルおよびエラグ酸を含む50%以上の総没食子酸エステルを含む、前記〔7〕に記載の処方物。

[ 9 ] 前記相乗作用性組成物が、0.5% w/wのココス・ヌシフェラ液状内乳由来濃縮物を含み、前記濃縮物が40% w/w以上の総溶解固体を含む、前記〔7〕に記載の処方物。

[ 10 ] 前記相乗作用性組成物が0.001% w/wのセレノペプチドを含む、前記〔7〕に記載の処方物。

[ 11 ] セレノペプチドが -L-グルタミル-セレノメチル-L-セレノシステインである、前記〔7〕に記載の処方物。

[ 12 ] セレノペプチドが -L-グルタミル-L-セレノメチオニンである、前記〔7〕に記載の処方物。

[ 13 ] ストレスシグナルに対する真皮乳頭細胞の耐性を高める方法であって、前記方法が、真皮乳頭細胞および前記〔1〕または〔7〕に記載の保護処方物を接触させる工程を含む、前記方法。

[ 14 ] ストレスシグナルに暴露されている間に真皮乳頭細胞の形態および数を維持する方法であって、前記方法が、真皮乳頭細胞および前記〔1〕または〔7〕に記載の保護処方物を接触させる工程を含む、前記方法。

[ 15 ] 真皮乳頭細胞が真皮幹細胞／前駆細胞を含む、前記〔13〕または〔14〕に記載の方法。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

相乗作用性組成物を含む真皮乳頭細胞保護処方物であって、前記組成物が、1-O-ガロイル- -D-グルコース (-グルコガリン)、ココス・ヌシフェラの液状内乳の濃縮物、およびセレノペプチドを含む、前記処方物。

【請求項2】

前記相乗作用性組成物が、少なくとも10% w/wの1-O-ガロイル- -D-グルコース (-グルコガリン)を含む、請求項1に記載の処方物。

【請求項3】

前記相乗作用性組成物が0.5% w/wのココス・ヌシフェラの液状内乳の濃縮物を含み、前記濃縮物が40% w/w以上の総溶解固体を含む、請求項1又は2に記載の処方物。

【請求項4】

前記相乗作用性組成物が0.001% w/wのセレノペプチドを含む、請求項1乃至3のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 5】**

セレノペプチドが - L - グルタミル - セレノメチル - L - セレノシステインである、  
請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 6】**

セレノペプチドが - L - グルタミル - L - セレノメチオニンである、請求項 1 乃至 4  
のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 7】**

相乗作用性組成物を含む真皮乳頭細胞保護処方物であって、前記組成物が、1 - O - ガロイル - - D - グルコース (- グルコガリン) および没食子酸エステル、ココス・ヌシフェラの液状内乳の濃縮物、並びにセレノペプチドを含む、前記処方物。

**【請求項 8】**

前記相乗作用性組成物が、少なくとも 10% w / w の 1 - O - ガロイル - - D - グルコース (- グルコガリン)、並びにムチン酸 1 , 4 - ラクトン - 5 - O - 没食子酸エステル、ムチン酸 2 - O - 没食子酸エステル、ムチン酸 6 - メチルエステル 2 - O - 没食子酸エステル、ムチン酸 1 - メチルエステル 2 - O - 没食子酸エステルおよびエラグ酸を含む 50% 以上の総没食子酸エステルを含む、請求項 7 に記載の処方物。

**【請求項 9】**

前記相乗作用性組成物が、0 . 5% w / w のココス・ヌシフェラの液状内乳の濃縮物を含み、前記濃縮物が 40% w / w 以上の総溶解固体を含む、請求項 7 又は 8 に記載の処方物。

**【請求項 10】**

前記相乗作用性組成物が 0 . 001% w / w のセレノペプチドを含む、請求項 7 乃至 9  
のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 11】**

セレノペプチドが - L - グルタミル - セレノメチル - L - セレノシステインである、  
請求項 7 乃至 10 のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 12】**

セレノペプチドが - L - グルタミル - L - セレノメチオニンである、請求項 7 乃至 1  
0 のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 13】**

ストレスシグナルに対する真皮乳頭細胞の耐性を高めるための、請求項 1 乃至 12 のい  
ずれかに記載の処方物。

**【請求項 14】**

ストレスシグナルに暴露されている間に真皮乳頭細胞の形態および数を維持するための  
、請求項 1 乃至 12 のいずれかに記載の処方物。

**【請求項 15】**

真皮乳頭細胞が真皮幹細胞 / 前駆細胞を含む、請求項 13 または 14 に処方物。